

(2) 日滿伊貿易協定

467 昭和13年3月10日
在伊国堀田大使より
広田外務大臣宛(電報)

伊国訪日經濟使節團の任務について

ローマ 3月10日後発
本省 3月11日前着

第九七號

貴電第六九號ニ關シ(伊國訪日經濟使節團來朝ニ關スル件)一行ハ「コンチ」外五名他ニ產業家代表(海運關係者一名ヲ含ム由)六名ヲ加ヘ合計十二名ニシテ四月八日「コンチブエルデイ」號ニテ五月二日上海着同地ニテ日本船ニ乗換ヘ七、八日頃東京着ノ豫定ニシテ其ノ任務ハ(一)目下當地ニテ交渉中ナル日伊間「バーター」取引(二)第三國市場ニ於ケル日伊角逐ノ結果蒙ル相互ノ利益緩和竝ニ(三)伊國滿洲國間修好通商航海條約締結方ニ關シ日滿當局ト折衝スルニアル處六名ノ產業家代表ハ右交渉トハ別ニ専ラ滿洲國及北支開發ニ對スル伊國參加ノ可能性ニ關シ調査報告スルニアル趣ナリ

九日外務省係官ヲ往訪セル館員ニ對シ居合セタル使節團長「コ」ハ滞在期間ニ付未タ豫定ナク右ハ東京及新京ニ於ケル交渉ノ進展如何ニ懸ルコトトナルヘキモ成ルヘク短キヲ希望シ居ル旨竝ニ一應準備整ヒタル上二十一、二日頃未蘭ヨリ羅馬ヘ來リ本使トモ打合スヘキ旨述ヘタル趣ナリ尙九日「ム」首相ハ「コ」ヲ引見セル由ニテ伊國政府力相當重要視シ居ルコトヲ思ハシム一行ノ氏名及經歷等ハ追電ス

~~~~~

468 昭和13年3月22日  
在伊国堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

日伊通商協議に関する伊国側の意向について

ローマ 3月22日後発  
本省 3月22日夜着

第一三〇號

往電第九七號ニ關シ

既ニ在京伊國大使館ヨリ話アリタルコトトハ存スルモ伊國側ニテハ經濟使節出發ニ先立チ業者トノ打合其ノ他準備ノ都合モアルニ付冒頭往電ノ討議竝ニ調査事項ニ付我方ニ於テ異議ナキヤ尙各事項ニ關シ差當リ我方氣付ノ點竝ニ希望

等早目ニ承知シ度キ趣ニ付御回示相成度シ

尙目下懸案中ナル日伊間通商話合ニ付テハ伊國側ハ日滿ヲ一体トシテ一對一ノ通商取極ヲ結フコトトシ又第三國市場ニ關シテハ主トシテ絹、絹屑及人絹ニ關スル日伊ノ不必要ナル競争ヲ止メ相互ノ利益増進ヲ圖リ度キ意向ヲ有スル趣ナリ



469

昭和13年4月2日  
在伊國堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 伊國側作成の通商協定草案について

別電 昭和十三年四月二日發在伊國堀田大使より広

田外務大臣宛第一五七号

右協定草案の概要

ローマ 4月2日前發

本省 4月2日後着

第一五六號

往電第一四三號ニ關シ

外務省ヨリ滿洲國トノ修好通商條約竝ニ日滿ニ對スル通商協定草案(佛文)ハ三月三十日飛行便ニテ在京伊國大使館宛

發送セル趣ニテ右寫送付越シタル處通商協定草案内容概略別電第一五七號(一)ノ通り右別電(二)ノ日滿ヨリノ買付品中ニハ我方ヨリ要求セル物品ノ(内)ニハ「ペリラ」油ヲ追加(爲替局係官ノ言ニ依レハ右ハ試験的ニ輸入スルモノナル由)亞麻子及樟腦ニ付多少ノ増額ヲ爲シ居ル外別段ノ變更ナシ尙民間隨員ノ一人ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ伊國側ハ右草案作成迄ニハ日滿獨間ノ申合竝ニ協定ヲモ參照シ幾度トナク交渉ヲ重ネタル由ニテ又伊側ハ本件取引ノ衝ニ當ラシムル爲重要ナル工業家ヲ網羅セル一機關ヲ設ケ度キ意向ヲ有シ居ル模様ナリ(右機關ニ日本側當業者ヲ合同セシムル案モ討議セラレ日本ニ於ケル小資本ノ當業者ノ利益ヲ考慮シ右成立後一定條件ノ下ニ此ノ種ノモノノ參加ヲ許ス仕組ト爲ス必要アルヘシト言フカ如キ細目ニ至ル迄檢討ヲ經タリト言フ)右ニ對シテハ既ニ滿洲國ニ相當ノ地盤ヲ獲得シ居ル「ファイアット」方面ノ反對等アリテ確定案ヲ得ルニ至ラサリシモノノ如ク政府ヨリハ未タ公式ニ申出ナキモ御參考迄ニ電報ス

尙協定草案全文御入用ナルニ於テハ御申越次第電報スヘシ獨ヘ暗送セリ

(別電)

ローマ 4月2日午後  
本省 4月3日前着

第一五七號

(一)<sup>(1)</sup>協定草案

第一條、伊國政府ハ日滿品ニ對シ(二)掲記ノ年次割當ヲ許  
可ス右割當ハ必要ニ依リ交換公文ヲ以テ變更スルコト  
ヲ得

第二條、日本及滿洲國政府ハ臨時ノ購買ヲモ合ハセ右ト

同額迄伊國品ヲ買付クヘキモノトス

第三條、代金支拂ニ關シテハ三國共自由ニ爲替送金ヲ許  
可スヘキモノトス

第四條、伊國側ニテハ國立爲替局(Instituto nazionale per i  
Camp con l'estero)、日滿側ニテハ特定銀行ヲシテ本件  
取引ヨリ生スル支拂及受取額ニ關スル勘定ヲ作成セシ  
ム右勘定ハ磅ニテ之ヲ表示シ磅以外ノ貨幣ヲ基礎トス  
ル取引ニ付テハ夫々羅馬及東京ニ於ケル爲替相場ニ依  
リ之ヲ磅ニ換算ス

商品ノ原產地ハ通シ船荷證券又ハ原產地證明ニ依リ之  
ヲ證明ス商品ノ價格ハF、O、Bニ依リ之ヲ算定シ運  
賃、保険料及諸掛ヲモ前記勘定ニ記入ス

第五條、國立爲替局及日本側銀行(日滿側ヲ代表ス)ハ毎  
月相互ニ前記勘定統計ヲ交換シ六箇月目ニ右勘定ヲ締  
切ルモノトス其ノ際輸入超過トナリタル方ハ相手國カ  
買進メヲ爲ス迄右超過額丈ケ相手國ヨリノ次期買付ヲ  
停止スルコトヲ得

第六條、第四條及第五條實行ニ必要ナル細目ハ國立爲替  
局及日滿側銀行間ノ協議ニ任ス

第七條、私的送金ハ之ヲ許サス

第八條、本協定ハ一九三九年六月三十日ヲ以テ終了スヘ  
ク滿期前三箇月ノ豫告ナキ限り更ニ六箇月間順次延長  
セラレ

(尙本協定ハ日、滿、伊ノ三國代表者ニ依リ署名セラ  
ルル形式トナリ居レリ)

(二)日滿品ニ對スル年次割當表

| 伊國稅番 | 品名 | 金額       |
|------|----|----------|
| ——   | —— | 單位百萬「リラ」 |

|             |                   |        |
|-------------|-------------------|--------|
| 一一七 I       | 大豆                | (四五)   |
| 一一七 A       | 落花生               | (二八)   |
| 一一七 H       | 胡麻                | (二〇)   |
| 一一七 E       | 亞麻脂               | (二〇)   |
| 一二五 H       | 大豆油               | (二〇)   |
| 一二五 H       | 「ペリラ」油            | (三、五)  |
| 一二四 A 2     | 魚油                | (四)    |
| 一三七 A 2     | 硬化魚油              | (二四)   |
| 一三七 B 2     | 木蠟                | (一)    |
| 六五八         | 芳香油               | (一)    |
| 六三六 (A)     | 原珊瑚               | (二)    |
| 七七五         | 樟腦                | (〇、三)  |
| 八〇三 (B)     | 寒天                | (〇、一)? |
| 九五一         | 檻樓                | (五)    |
| 二五          | 卵黃                | (一)    |
| 二四八         | 絹屑                | (一〇)   |
| 二四六         | 繭                 | (二)    |
| 五六五         | magnesite calciné | (三)    |
| 合計一億五千萬「リラ」 |                   |        |

獨へ暗送セリ



470

昭和13年4月12日

在伊國堀田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 伊國訪日經濟使節團との協議に関する意見具申

ローマ 4月12日後発

本省 4月13日前着

第一七三號

伊國訪日經濟使節團トノ話合ニ付テハ既ニ充分御高配ヲ得  
居ルコトトハ存スルモ左ニ卑見申進ス

一、今次使節團來訪ノ結果カ日伊兩國間政治關係ニ影響スル  
所アルヘキハ申迄モナキ儀ニ付其ノ交渉ニ當リテハ日本  
ヲ盟(邦)?トシテ遇スル伊國ノ友好的態度ヲ常ニ念頭ニ置  
キ我方ヨリモ極メテ友誼的ニ諸問題ヲ檢討シ妥協ヲ計ラ  
ルル様特ニ御高配ヲ仰ク内聞スル所ニ依レハ「ム」首相  
ハ使節ニ對シ日滿トノ話合ニハ經濟的利害竝ニ採算ノミ  
ニ支配セラレス日伊ノ政治關係ヲ顧慮シ大乗の見地ヨリ  
商議スヘキ旨申聞ケタル趣ナリ

二、伊國政府カ日本トノ通商協定交渉ニ乗出シタルハ之ニ依

#### 4 貿易協定をめぐる交渉

リテ兩國間親善關係ノ促進ニ資スルト共ニ各種經濟活動特ニ輸出入ヲ爲シ得ル限り友好國間ニ振向ケ自給自足政策ノ及ハサル所ヲ補フノ方針ニ出テタルモノト推測セラ  
ルル處(往電第六號御參照)我方ヨリ之ヲ見ルニ對伊通商協定ニ依リ伊國工業トノ聯絡ヲ密ニスルコトハ獨逸工業ニ偏重依寄シテ自然專横ニ流ルル弊ヲ豫防スル爲ノ用心トシテモ相當效果アルヘク將又對蘇<sup>ソ</sup>關係險惡ナル現下ノ情勢ニ鑑ミ獨逸ニ於テ軍需品補給ノ求ニ應スル充分ノ餘裕ナキ場合ヲ豫見シ斯ル萬一ノ事態ノ準備的對策トシテモ等閑ニ附スルコトヲ許ササル緊要事ナルヘシ尙米國ヨリ購入スル工具類等ニ付テモ同様ノ趣旨ニ依リ之ヲ伊國ニ振向クルニ於テハ旁々國際貸借ノ改善ニモ資スルコトトモナルヘシ(伊國係官ニ對シテハ館員ヨリ本件求償ノ難點ハ我方ノ買付如何ニ在ルヘキ處右原因ハ伊國品カ米獨品ニ比シ高價ナル爲ト思考セラルルニ付伊國側ニテ特ニ本邦向ケ輸出ニ對シ保證金ヲ交付スルカ如キコトモ考慮ノ要アルヘキ旨内話シ置ケリ)

三、<sup>(2)</sup>日滿對伊三國間求償ノ問題ニ關シ我方ニテ伊國ノ買付希望額ト同額ノ買付ヲ爲スコトハ輸入品目ノ選定ニ關シ相

當ノ困難アルヘシト推察スル處伊國ハ飛行機竝ニ自動車工業ニ於テ優秀ナル技術ヲ有シ又特殊ノ新兵器アル外伊「エ」紛爭竝ニ經濟制裁ノ經驗ニ鑑ミ自給自足強化ノ見地ヨリ銳意國內産業發達助成ニ努力シ居リ本邦ト經濟事情ヲ同フスル國柄トシテ本邦産業ニ利用シ得ヘキ各種ノ發明ヲ有スルニ鑑ミ此ノ際年額二、三千萬圓程度ノ買付ヲ約スルモ實行上左シタル支障ヲ生スヘシトハ想像セラ  
レス殊ニ伊案(往電第一五七號)ニ依レハ當事國双方ニ於テ買付額ヲ調節シ得ル條項存スルニ付我方輸入品目選定ノ完了ヲ待ツ迄モナク大體ノ御見込ヲ以テ伊案ヲ原則的ニ承諾シ差支ナキカ如シ(尤モ我方買付額ノ勘定ニハ特許權買收ノ支拂<sup>(拂カ)</sup>ヲモ算入スル旨ノ明文ヲ設クルコト必要ナルヘシ)尙協定ノ當事國トシテ日滿ヲ一體ト看做スコトハ我方ニ御異議ナキ所ト諒解スル處其ノ運用ノ成績如何ニ依リテハ將來之ヲ北支ニ擴張スルコトモ考ヘ得ヘシ  
四、<sup>(3)</sup>北支及中支ニ於テ何等適當ナル利權ヲ伊國側ニ許容スル件ニ付テハ既ニ御考究ノコトト推察スル處伊國ハ十年來支那市場ノ開拓ニ努力シ其ノ對支貿易ハ總額一億「リラ」ヲ越ヘ大體輸出入均衡ヲ得居ル處昨年支那事變勃發ト共

ニ日本支持ノ態度ヲ明確ニシタル結果此ノ支那ニ於ケル地盤ヲ失フノ懸念アリ從テ國內實業家ノ間ニハ相當不滿ノ聲アルモ政府ハ將來日本トノ提携ニ依リ何トカ爲シ得ヘキヲ以テ慰撫抑制シ居ル實情ニシテ爲替大臣ノ内話ニ依レハ商務官ヲ上海ヨリ東京ヘ移シタルハ以上ノ方針ニ基クモノナリト言フ唯伊國ノ對支開發參加ハ其ノ財政ノ現狀ニ應ヘ技術ノ供給ヲ主トシ恐ラク纏マリタル投資ヲ期待シ難カルヘキモ之ト同時ニ英米資本ノ對支發展ノ如ク何等壓迫ヲ蒙ムル危險ナク寧口伊國ヲシテ其ノ對日提携政策ニ成功ヲ收メシムルコトハ英米ニ對スル實物敎訓トモナリ今後對支政策遂行上或程度英米ヲ牽制シ將來或ハ列強ヲ本邦トノ協調ニ向ハシムル端緒トナルヤモ測リ難シ依テ以上ノ諸點御留意ノ上本件ニ關スル伊國側ノ希望ニ相當ノ満足ヲ與ヘラルル様致度シ

五<sup>(4)</sup>

第三國市場ニ於ケル協調問題ニ關シテハ貴電第一〇八號御來示ノ御趣旨「コンテイ」ニモ内話シ置キタルカ之トテモ英國トノ場合トハ趣ヲ異ニシ絕對ニ話合出來サル問題ナリトシテ撥付クルハ策ノ得タルモノニアラス暹羅ニ於ケル日伊造船業者ノ競争ハ双方相談ノ上損失ヲ避クル

程度ノ協調望マシク米國印度向ケ帽子、印度方面向ケ毛織物ニ付テモ同様ナルヘク又米國ニ於ケル伊國生絲ノ占ムル割合ハ極メテ僅少ニ付我方ヨリ妥協的態度ヲ示スコト不可能ナラサルヘシ唯問題ハ人絹及同製品ナルヘキ處伊側ハ日本品ノ優越ナル地位ヲ否認セントスルモノニアラス日本ノ分前ヲ尊重シテ話合ヲ進メタキ意嚮ヲ有シ居ル様推測セラルル位ナレハ我方ノ態度次第ニテハ妥協點ヲ求ムルコト必スシモ不可能ニアラサルヘク又例ヘハ埃及ニ於テハ我商品ノ失ヒタル市場回復ノ爲伊國品トノ競争ヲ見ル形勢ニアル模様ナルモ其ノ間多少手加減ノ餘地存セサルニアラサルヘシ本問題ニ付テハ特ニ研究ヲ遂ケタル次第ニアラサルヲ以テ明(確?)ナル意見ヲ立ツル材料ヲ有セサルモ要スルニ通商上ノ現實ノ利害ト國交上ノ政治的考慮トノ間ニ適當ノ調和點ヲ見出ス様當業者ヲ指導セラレンコトヲ切望ス

六、使節ヲ初メ一行中ノ多數ノ者ハ何レモ本國ニ重要ナル業務ヲ有スル爲本邦滞在ハ長期ニ亘ラサルコトヲ希望シ居リ就テハ日滿伊通商協定ノミナラス滿伊通商條約ニ付テモ滿洲國側ニ於テ豫メ案文ヲ檢討シ置カレ出來得レハ東

京ニ於テ滿洲國當局ト大體ノ商議ヲ行ヒ新京ニテハ案文ニ最後ノ修正ヲ施ス程度ニテ直ニ調印スルコトヲ得ル様御手配アリ度キ旨特ニ「コンテイ」ヨリ依頼アリタリ尙以上ノ事情ナルニ依リ歡迎等ハ禮ヲ失セサル程度ニテ成ルヘク簡略ニシ實質的ニ交渉ノ效果ヲ擧ケ得ル様御配慮アリタシ

~~~~~

471 昭和13年5月11日

日滿伊通商會議録(第一回)

日滿伊第一回會議

一、日 時 (五カ) 三月十一日午後四時

二、場 所 工業俱樂部

三、出席者

日本側 松嶋通商局長 山形勅任事務官 千葉通商局

第三課長

滿洲側 河野外務局第一科長 隱岐貿易科長

伊太利側 マツトリー アンゼローネ デイ・ファルコ

ボニベール

松嶋通商局長ヨリ我方對案ニ對スル伊國側ノ意見ヲ求メタルニ對シ先方ハ(イ)條約ノ適用地域ハ本國ニ限り屬領ハ之ヲ除外シ度ク(ロ)工業所有權ニ關シテハ個々ノ場合ニ考慮スルコトハ差支ナキモ議定書中ニ之ヲ明示スルコトハ困惑ス(ハ)既存債務ヲ本協定中ニ包含セシムルコトハ絕對ニ同意シ難シト答フル處アリタリ

右ニ對シ我方ハ何等言及スルコトナク先ツ右前提トシテ求(償カ)債協定ノ形式ヲ採ラス清算協定トスルコトニ異存ナキヤト訊シタルニ對シ先方ハ清算協定ハ既ニ經驗濟ミニテ成功ノ望薄キヲ以テ求(償カ)債協定ト致度シト答ヘタルヲ以テ通商局長ハ我方トシテハ個々ノ取引ニ付爲替取組ヲ避クルコトハ既定ノ大方針ナルヲ以テ右ハ到底同意シ難シト應酬シ伊國側ノ再考ヲ促シタル處先方之ヲ承諾シ散會當日程中ニハ明十二日一般討議ヲ行フコトトナリ居ル處都合ニ依リ之ヲ取止メタリ

~~~~~

472 昭和13年5月12日

日滿伊通商會議録(第二回)

日滿伊間第二回會議

日時 五月十二日午後三時

場所 工業俱樂部

出席者

日本側 松嶋通商局長、山形勅任事務官、千葉通商

局第三課長、新納同第二課長

滿洲側 河野外務局第一科長、内田總務廳參事官、

隱岐貿易科長、始關特產科長

伊太利側 マットリー、アンゼローネ、ディ・ファル

コ、ボニベール

議事

一、松嶋通商局長ヨリ伊太利側ニ對シ

(イ)協定ノ適用區域ニ關シ若シ「リビヤ」ニ對スル我方輸

出ヲ何等カノ方法ニテ確保シ得ルニ於テハ屬地ヲ包含

セサルコトトスルモ差支ナク

(ロ)特許權ニ關シテハ滿獨協定ニ近キ趣旨ニテ約束ヲ爲ス

コトトセハ可ナリ

(ハ)既往ノ債務ニ關シテハ日本ノ凍結資金十六萬圓ヲ「レ

リース」スルカ又ハ成立スヘキ協定ニ依リ貿易金額ト

ハ別ニ右ノ額丈ケ日本品ヲ買フコトトスルニ於テハ本  
件ハ協定ト別途ニ考慮スルコトトシ差支ナシ

ト告ケタル處之ニ對シ伊太利側ハ

(イ)ニ付テハ日本ニ不利トナラサル様保障方本國ニ請訓ス  
ヘク

(ロ)ニ付テハ前回ニモ申述ヘタル通り個々ノ場合ニ考慮ス  
ルコトトシ度ク

(ハ)ニ付テハ凍結債權ノ問題ハ本協定以外ノ別ノ方法ニテ  
解決スルコトト致度シト

ト答フル所アリタリ

二、清算協定トスルコトニ付テハ先方ハ依然過去ノ實情ヨリ  
シテ應諾スルヲ得ストノ態度ヲ強硬ニ持シ居レリ

三、前記ノ通り「リビヤ」ニ對スル我方ノ輸出保障ヲ取付ケ  
得ル前提ノ下ニ品目表ヲ提示シタル處先方ハ何レ研究ノ

上對案ヲ提出スヘキ旨約シタリ

~~~~~

473 昭和13年5月25日 在伊国堀田大使より
広田外務大臣宛(電報)

清算協定方式に対する伊国側反対への対応振

りにつき意見具申

ローマ 5月25日後発

本省 5月25日夜着

第二三五號

貴電第一五八號ニ關シ(日滿伊間貿易協定ニ關スル件)

一、御來示ノ次第係官ヲシテ外務省ニ申入レシメタル處使節團ニ對スル回訓ニ付テハ伊側態度未タ確定のニ決定シ居ル次第ニハアラサルモ主管官廳タル爲替省ハ過去ノ經驗ニ基キ清算協定ノ採用ニハ相當強硬ナル反對意見ヲ有スル趣ナリ就テハ當館ヨリ伊側ニ説明ノ參考トシテ清算協定ヲ主張セラルル理由御回電ヲ請フ

二、伊側反對ノ理由ニ付テハ未タ明確ナル説明ヲ受ケ居ラサルモ清算協定ト求償協定ノ利害ニ關シテハ慎重ノ考量ヲ要スルモノアルカ如シ即チ清算協定ニ依ルトキハ爲替手當ノ要ナク且本邦力入超トナリ居ル國ヲ牽制シ得ヘキヲ以テ理論上一應巧妙ナル方法ナリトノ印象ヲ受クヘキモ同協定ハ實際ニハ技術上多大ノ困難ヲ件^(件カ)ヒ(瑞西在任中同國係官ヨリ聽キタル説明ニ依レハ清算協定實施上ノ困難ハ想像以上ノモノアリテ之カ爲ニ絶エス煩雜ナル外交

上ノ交渉ヲ必要トスル由又在當地瑞典公使ノ内話ニ依ルモ同國ト伊國トノ清算貿易ハ極メテ好成績ト認メラレ居ルモ而モ三、四月毎ニ必ス面倒ナル交渉ヲ生スル實情ナリト)恐ラク伊側ノ反對理由モ茲ニアルモノト推察スル處此ノ技術上ノ困難ヲ別トスルモ求償貿易ニ個有ノ缺點トシテ常ニ輸入超過國カ相手國ニ對シ殆ト命令的ノ優勢ナル地位ヲ占ムルモノナルコトニ留意スルヲ要ス之ヲ日滿伊ノ貿易ニ當嵌メ考フルニ伊國ノ輸入ハ買付品目ノ性質及價格等ニ鑑ミ本邦ノ伊國品購入ニ比シ容易且迅速ナルヘキヲ以テ我方買付ハ動モスレハ後レ勝且受身トナリ從テ我方ハ輸入セサレハ代金ヲ回收シ得サル關係上不利益ナル條件ヲ忍ビテモ伊國品買付ヲ取急クコトトナル懸念濃厚ナリ右ノ如キ不便ハ伊國案ヲ採用スルコトニ依リ之ヲ除キ得ヘク依テ伊側カ強テ原案ヲ主張スル場合ニハ或ハ之ヲ受諾スルコト却テ我方ニ有利ナルカ如ク思考セラルル是等ノ點ハ既ニ充分御考究相成リタル儀ト存スルモ爲念卓見申進ス

~~~~~

昭和13年5月27日

在伊国堀田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

## 清算協定方式への反対理由につき伊国為替大

## 臣説明について

付記 通商局作成、作成月日不明

協定方式をめぐる伊国側との応酬経緯

ローマ 5月27日後発

本省 5月28日前着

## 第二三六號

往電第二三五號二關シ

二十五日爲替大臣ト懇談シタル處同大臣ハ伊國側カ清算協  
定ニ反對スルハ何等自國ノ利益ヲ計ル意圖ニ出テタルモノ  
ニアラスシテ偏ニ實際ノ經驗ニ基クモノナリ伊國ハ可ナリ  
多數ノ國ト清算協定ヲ締結シタルカ其ノ實行ニハ絶エス面  
倒ナル交渉問題ヲ惹起シ隣接ノ場合ニハ双方ノ係官専門家  
ノ會合ニ依リ何トカ取纏メ行クコトヲ得ルモ遠隔ノ地ニア  
ル國トノ間ニハ斯ル便法ニ依ルコトヲ得ス到底圓滑ナル運  
用ヲ期シ難シ現ニ伊國ハ伯刺西爾ト清算協定ヲ締結シタル  
モ殆ト實施不可能ノ狀態トナリ六箇月後ニハ之ヲ廢棄シテ

求償協定ニ變更スルコトナレリ佛伊ハ隣接國ナルニ拘ラ  
ス兩國間清算協定ノ實績面白カラサル爲最近之ヲ廢止セル  
始末ナリ伊國ノミナラス歐洲各國ノ實例ニ徴スルニ何レモ  
清算協定ニ失敗シ求償協定ニ移行行クヲ一般ノ趨勢トス斯  
クノ如ク實際ノ運用不可能ナルコト明白ナル協定ヲ日本ト  
新ニ結フコトハ如何ニスルモ承諾シ兼ねル次第ナルニ付  
「コンチ」使節ニ對シテハ右ノ事情ヲ詳細説明シ原則)トシ  
テハ求償貿易ヲ採用スルト共ニ日本側ノ希望ヲ參酌シ纏マ  
リタル取引(例ヘハ滿洲國ヨリノ自動車註文ノ場合ノ如キ)  
ニ付一對一ノ物々交換ノ契約ニ依ルコトスル案ヲ日本政  
府ヘ提出スル様訓電方取計ヒ置キタリ右伊國側對案ハ實際  
此ノ困難ヲ排除スルヲ目的トシ全ク他意アル次第ニアラサ  
ルニ付日本政府ニ於テモ此ノ實情ヲ了解セラレ速ニ同意ヲ  
與ヘラレンコト切望ニ堪エスト申述ヘタリ依テ本使ハ日本  
側カ清算協定ヲ主張スルハ相當ノ理由アルコトト考フルモ  
實行上ノ困難アリトセハ考究ノ要アルコト勿論ナルニ付御  
説明ノ趣旨ハ直ニ本國政府ヘ傳達スヘキ旨答ヘ置キタリ

## (付記)

## 日滿伊間貿易協定ニ關スル件

伊國側ハ豫テ在伊堀田大使ヲ通シ一億五千萬「リラ」ニ相當スル日滿兩國ノ一定品目ノ輸入割當ヲ留保シ之ニ日滿兩國モ連帶シテ同額ノ伊國品ノ輸入ヲ許スヘキ旨ノ求償協定案ヲ提議シ來リタルカ右伊國案ハ買過キタル一方ハ他方ヨリ輸入ヲ一時停止スルコトトナリ居リ我方輸入品目ノ關係上多大ノ不利アルノミナラス又貿易萎縮ヲ導ク惧アリ又自由ニ爲替取組ヲ許ス案ナルヲ以テ我方ニ於テハ輸入爲替手當及之ニ基ク輸入計畫ノ關係上到底應諾シ得ヘキモノニアラサル上日滿ノ伊ニ對スル出超關係ヲ拋棄シ且煩鎖ナル統計畫手段ヲ要スル等ノ缺點アルヲ以テ關係省トモ協議ノ上爲替手當ノ要ナキ清算協定案ヲ作成シ置キ經濟使節團來朝後右案ニ基キ交渉ヲ開始シタル處先方ハ從來ノ他國トノ經驗ニ徴シ贊成シ難シト頑固ニ伊國原案ヲ主張シテ譲ラサリシモ種々折衝ヲ重ネタル結果五月二十日ニ至リ「コンチ」團長モ大体我方案ヲ承諾シ

(イ)日滿一伊國一ノ基礎ニ於テ双方トモ重要品一億七千萬

「リラ」ノ輸入豫定額ヲ定メ右ハ全部清算ニ依ルコト

(ロ)協定品目以外ノ商品ニ付テハ各現行制度ニ從ヒ之カ輸入

## 入ヲ許スコト

(ハ)協定ノ效力發生後直ニ日本ヨリ約千萬圓ノ注文ヲ發シ右注文ト同時ニ外貨ヲ以テ二百五十萬圓ヲ伊太利ニ貸與シ伊太利ハ四ヶ月乃至六ヶ月ノ後之ヲ外貨ヲ以テ返済スル

コトニ付本國ニ請訓方約シタルカ二十六日ニ至リ本國政府ニ於テハ依然清算協定ノ形式ハ承認シ難キ旨回訓シ來リタル趣ヲ以テ伊國原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノヲ提議シ來リタルモ右ハ我方ニ於テ到底承認シ得ルモノニアラス。要スルニ伊本國政府ノ反對ハ一二懸ツテ支拂ノ方法ニ存ス、使節團ト我方トノ間ニハ既ニ品目、價額ニ於テ意見一致シ居リ且支拂ノ方法ニ於テモ使節團自身ニ於テ同意シ本國政府ニ請訓シタル位ナレバ今一息伊本國ヲ押セバ受諾スルモノト期待シ得ルヲ以テ五月二十七日再應團長「コンチ」氏ニ對シ本國ハ電報方ヲ申入ルルト共ニ堀田大使ニ對シ自ら外相ニ面接清算協定受諾方ヲ申入レシムルコトトセリ。

~~~~~

475

昭和13年5月30日

在伊國堀田大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

清算協定方式を回避し伊國側と妥協点を見出

すべき旨具申

ローマ 5月30日午後

本省 5月31日前着

第二三九號

貴電第一六三號及第一六四號ニ關シ(日滿伊貿易協定ノ件)

(一)彼我主張ノ相違ハ清算協定ヲ支障ナク運用スルコト可能ナリヤノ一點ニ歸着スル處爲替大臣ノ説明ニ依レハ(往電第二三六號)殆ト實施不可能ニ陥リ數箇月ヲ出テスシテ改訂ノ餘儀ナキニ至ルヘク之ヲ求償貿易ニ比較シ單ニ大同小異ノ手續ノ煩雜ト言フ程度ノモノニアラサルカ如シ若シ右説明ノ通りナリトセハ斯ル協定ヲ締結セル爲却テ將來ノ國交ニ面白カラサル影響ヲ及ホス惧ナキヲ保シ難ク依テ此ノ點ヲ確カムル爲主管省係官ニ清算協定實施上ノ困難ニ關スル詳細ノ具體的説明ヲ求メ置キタルニ付右入手次第電報スヘシ(實施上ノ困難ハ個々ノ取引ノ性質ニ依リ異ルノミナラス全ク豫見スルコトヲ得サル種々ノ態様ヲ示ス由ニテ恐ラク一概ニ之ヲ明瞭ナラシムルコト不可能ナルヘキカト思ハルモ右係官ノ説明ヲ得レハ

少クトモ大體ノ見込ヲ立テ得ヘシ)

(二)伊國側ノ對案ニ依レハ個々ノ取引ニ付テハ物々交換ノ決濟方法ヲ採用セル契約ニ依ルコトヲ得ル途開カレ居ル由ニ付日滿伊貿易ノ大部分ヲ占ムヘキ我方ノ軍需品買付ハ總テ此ノ方法ニ依ルコトナリ從テ爲替手當ノ必要モ生セス求償貿易ニ對シ我方ノ不便トスル所ハ實際上略排除セラレタルモノト認ムヘキカ如シ運用困難ノ爲清算協定ヲ回避スルハ伊國獨逸ノミナラス歐米一般ノ趨勢ナルニ鑑ミ協定ノ原則ニ拘泥セス上述ノ方式ヲ基礎トシテ妥協點ヲ見出スコト或ハ一案カト思考ス

(三)本來伊國側ニ於テハ一對一ノ對日貿易ニ難色アリタルモ(一〇對五ノ比率ナレハ日獨間ノ協定ニ比シ有利ノ條件トシテ日本側ニモ不滿アル筈ナシトノ意見ヲ相當強ク主張セリ)外務大臣、爲替大臣等ニ懇談ノ結果政府ニ於テ日伊親善政策ノ立場ヨリ主管省係官及當業者ノ反對ヲ押切り漸ク之ヲ受諾スルニ至リタルモノナル處今次ノ經濟使節團ニ對シ政府ノ與ヘタル訓令モ日伊國交ノ政治的考慮ヲ根本義トセルモノト推測セラレ(往電第一七三號(一)後段)從テ伊國側ニ於テ通商上ノ多少ノ損益ノ爲協定不

調ヲ來スカ如キ措置ニ出ツヘシトハ考ヘラレス唯彼我先
解ノ相違ハ技術の問題ニ屬スル次第ナルニ付政治的交渉
ニ先立チ不取敢直接主管ノ爲替大臣ニ面會ノ上御電訓ノ
趣旨ニ依リ説得ヲ試ムヘシ

~~~~~

476

昭和13年5月31日 在伊国堀田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

清算協定方式に固執せず妥協案に同意するよ  
う伊国爲替大臣要望について

ローマ 5月31日前發  
本省 5月31日後着

第二四〇號(至急)

貴電第一六六號ニ關シ(日滿伊間貿易協定ノ件)

(一)三十日爲替大臣ニ面接シ清算協定案受諾方ヲ懇談シタル  
處爲替大臣ハ日本カ清算協定ニ無經驗ナル爲伊國側ノ言  
フ所ヲ了解セラレサルハ誠ニ遺憾ナルモ日本側ニテ一歩  
モ讓歩出來ストノコトナラハ兎モ角原則トシテ清算協定  
ニ依ルコトヲ認ムヘキモ本協定ニ伴フ各種ノ困難ノ多ク  
ハ爲替相場ノ變動ニ淵源スルモノナルヲ以テ右困難ヲ成

ルヘク少クスル爲先ツ第一點トシテ金純分ヲ基礎トシテ  
比較的安定セル米貨弗ヲ以テ精算ノ標準(磅貨ハ變動常  
ナキ爲標準<sup>ルカ</sup>トシテ不適當ナル由)トシ圓對「リラ」ノ爲  
替相場ニ依ルコトヲ避ケ又第二點トシテ個々ノ取引ヲ成  
ルヘク物々交換ニ依リ夫々個別的ニ決濟シ(爲替ヲ要セ  
サル一對一ノ個別的ノ物々決濟)清算協定ニ依リ困難發  
生ノ餘地ヲ少カラシムル様致度ク右ノ趣旨ニテ「コンテ  
イ」使節ニ訓令スヘキニ依リ此ノ妥協案ニ對シ是非共日  
本側ノ同意ヲ得度キ旨述ヘタルニ付テハ右ハ當方ヨリモ  
早速本國政府ニ取次クヘキ旨答ヘ置キタリ

(二)尙爲替大臣ハ本協定ノ困難ハ爲替變動ニ基キ何時迄モ商  
人カ完全ナル支拂ヲ得ラレサル點ニアリ殊ニ第三國貨幣  
ノ介在スル場合之カ決濟ハ想像ダモ及ハサル程複雑トナ  
リ其ノ解決ハ殆ント不可能ト斷言シ差支ナク又當事國カ  
遠隔ニテ而モ二國間ニアラス日滿伊三國ニ亘ル決算ノ方  
法ニ依ル場合ハ尙更ノコトニテ右ハ單ニ手續ノ煩雜ト言  
フカ如キ單純ナル問題ニアラス日本ニ於テハ其ノ點未タ  
充分了解ナキヤニ認メラルルモ日本側強テノ主張ナルニ  
付伊國側ニテモ原則トシテ前記ノ如ク枉ケテ清算協定ニ

依ルコトヲ受諾スルモ弗ヲ清算ノ標準トスルコト(個別  
的決濟ニハ日本側ニ反對ナカルヘキコト勿論ナルヘシ)  
ハ無條件ニテ承諾セラレ度キ旨特ニ附言強調セリ

~~~~~

477 昭和13年6月6日 在滿州国植田大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

滿伊修好通商航海条約交渉に関する伊国經濟使
節団と滿州国側との非公式会谈開催について

新 京 6月6日午後
本 省 6月6日夜着

第三七九號

五日正午對伊經濟委員(滿側關係官民ヨリ組織ス、當館ヨ
リ三浦、黒田出席)伊經濟使節団ト會食後非公式初會談ヲ
行ヒタル處先ツ伊側ヨリ滿側カ修好條約ト通商航海條約ト
ヲ夫々別箇ニ締結セントスル理由ヲ尋ネタルニ對シ滿側ヨ
リ、右カ新興滿洲國ノ國策タルコトニ恆久性アル修好條約
ト事情ニ應シ變更ヲ要スル通商航海條約トヲ一箇ノ條約ニ
取纏ムル理由ナキ旨反覆説明セルモ伊側ハ從來ノ慣例通り
兩者ヲ一括シ一箇ノ條約タラシムルコトヲ極力主張シテ讓

ラス結局後日ノ正式會議ニ於テ再討議ヲ行フコトトシ五時
散會セリ

尙滿測トシテハ右形式ヲ一應中止シ五日ヨリ協定細目ノ討
議ニ入り適當ノ時機ヲ見計ヒ之ヲ再上程スルコトトセル趣
ナリ

~~~~~

478 昭和13年6月9日 在滿州国植田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

滿伊修好通商航海条約案の細目に関する滿伊  
協議の状況について

新 京 6月9日午後  
本 省 6月9日夜着

第三八九號

往電第三七九號ニ關シ

六日第一回正式交渉ニ入り先ツ冒頭往電ノ通り一箇ノ條約  
トスヘキヤ否ヤノ點ヲ「コンテイ」團長、星野總務長官間  
ノ政治的折衝ニ讓リ協定細目ノ審議ニ入り滿側ヨリ東京ニ  
於ケル決定案ニ對シ其ノ後行ヒタル變更箇所ニ付説明セル  
處伊側ヨリ(前之)條約全文ノ「滿洲國政府及伊國政府」トアル

ヲ「滿洲國皇帝及伊國國王」「エチオピア」皇帝」トスルコト(二)入國ニ關シ最惠國待遇ヲ認ムルコト(三)船舶ニ關スル規定ヲ詳細ニスルコト(四)日滿共同防衛等ニ關スル例外規定ヲ具體的ニ例示シ以テ例外ノ範圍ヲ明確ニスルコト等修正意見ノ提出アリタルカ結局七日ノ第二回會議ニ於テ滿側ハ一括一個ノ條約ニ取纏メ第一章修好ニ關スル規定、第二章通商航海ニ關スル規定、第三章例外事項ニ關スル規定トスルコトトセル上右(一)及(三)ヲ承認シ(二)及(四)ヲ原案ノ儘トシ度キ旨申出テタル處伊國側ハ(四)ノ主張ヲ固執セルニ付八日ノ夕刻之カ妥協點發見ノ爲會議開催セルニ「コンテイ」團長ハ本國政府ヨリ九日ノ調印ヲ當分延期スヘキ旨ノ訓令アリタルニ對シ其ノ眞意本國ニ照會中ナルヲ以テ如何トモ致シ難キ趣申述ヘタルニ付一應散會セリ

尙「コンテイ」團長等ハ豫定ノ通り十日離京スルモ本國ノ訓令次第ニテ來京調印ノ趣ナリ委細公信

~~~~~

479

昭和13年6月13日

在伊國堀田大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

伊国側がわが方提案を受諾する見込みなき状

況に鑑み同国案を基礎として妥協すべき旨意
見具申

ローマ 6月13日前発

本省 6月13日後着

第二六二號

貴電第一七五號及第一七八號ニ關シ(日滿伊貿易協定ノ件)
一、十一日爲替大臣ヲ往訪シ一時間餘ニ亘リテ本邦案採用方
ヲ懇談シタル處爲替大臣ハ伊國側ハ大局の見地ヨリ日本
側ノ希望ニ副ハンコトヲ努メ其ノ根本方針スラモ變更シ
テ日本側希望通り原則トシテ清算協定ニ依ルコトヲ承諾
シタル次第ナルカ今次日本提案ハ伊國ノ爲替管理機構ト
矛盾シ到底受諾ノ餘地ナシ即チ外國貿易局(I、N、C、
E)ハ銀行トハ全然異ナリ爲替管理制度ノ運用ニ當ル政
府機關(爲替大臣カ同時ニ其ノ總裁ナリ)ニシテ其ノ任務
ハ専ラ外國爲替及清算ノ事務ノ統一ニアリテ割引等ノ普
通銀行業務ヲ營ム權限ナキハ勿論又之ヲ附與スヘキ性質
ノモノニアラス左レハトテ清算協定ニ基ク割引業務ヲ普
通銀行ニ委ヌルコトハ前記統一ヲ根本的ニ破壊スルコト
トナリ絶對不可能ナリ伊國案ハ日本カ強ヒテ清算協定ニ

依リ度シトノ希望ナリシニ依リ從來ノ經驗ニ鑑ミ之カ弊害ヲ少ウスル様研究作成シ之ナラハ何トカ運用シ得ルモノト思ヒ居ル次第ナルニ付之ヲ基礎トシテ研究ノ上伊國使節團トノ話合ヲ進メラレ度シト述ヘタリ

二、⁽²⁾次ニ弗貨ヲ標準トスル理由ニ付テハ往電第二四〇號ノ通り「リラ」貨ハ弗貨ト同様金純分ヲ基礎ニ安定セシメ居ルヲ以テ恰モ弗ニ「リンク」シタル如キ結果トナリ居ルコト及磅ヨリ安定セル弗ニ依リ爲替相場變動ニ依ル決済上ノ困難ヲ最少減度ニ止メントスルコトノ外他意ナキ處若シ日本政府ニ於テ右ニ依ルコトヲ困難トセラルル事情アラハ本件ハ根本的重大問題ニアラサルヲ以テ何等妥協ノ途アルヘキニ付充分「コンチ」ト御話アリ度シト述ヘ三、又清算制ヲ採用スル以上之ヲ兩國間貿易ノ一部分ノミニ限り日本案第七條ノ如ク爲替ニ依ル自由貿易ヲ殘置スルハ徒ニ事ヲ複雑ナラシムニ過キス全部ヲ求償の清算ノ基礎ニ置クコトトシ度ク日本案ニ反對ナル旨述ヘタリ(我方ヨリ觀ルモ伊國側ヨリ場合ニ依リ自由品ノ輸入許可ヲ拒絶セラルル場合ヲ生スル惧アリ却テ不利ナルヘシ)

四、最後ニ日本側ニテハ *Barter* ノ字句ヲ用ヒ居ラルルモ右ハ

伊國側ノ最初ヨリ主張シ居タル *compensation privée* ニ外ナラス就テハ此ノ點モ使節團ト御話セラルレハ妥結ニ達シ得ヘシト述ヘタリ

三、⁽³⁾前述ノ如ク日本提案ノ清算「システム」ハ伊側ニ於テ到底受諾ノ見込ナキ處伊側ハ既ニ讓歩シテ清算協定ノ原則ヲ承諾シタル次第第二モアリ又其ノ他ノ諸點ハ使節團トノ話合ニ依リ妥結シ得ヘシト認メラルルニ付テハ兩地ニ於テ話合ヲ爲スハ徒ニ交渉ヲ紛糾セシムルノミナラス使節團ハ交渉ノ全權ヲ附與セラレ居ルニモ鑑ミ此ノ上ハ貴地ニ於テ伊國案ヲ基礎トシテ妥協方御努力相成様致度シ

六、尙右話合ト關聯シ爲替大臣ハ日本側ハ日滿支間ノ特惠關稅留保ノ規定ヲ本協定中ニ挿入スヘシトノ提議アリタル旨在京大使館ヨリ電報ニ接シタルカ今外務省係官ヲ召集メ會議ヲ開キ討議シタルカ聽テハ全支ニ亘リ日本ノ勢力確立ニ至ルヘキカ斯特ハ伊國ノ對支通商ヲ失ハシムルモノニシテ右基礎ノ上ニ本協定ヲ作ルコトハ意味ヲ爲サス之二同意シ得サル旨述ヘタルニ付本使ハ右ニ關シテハ何等ノ情報ヲ有セス從テ提案ノ理由等ハ充分之ヲ承知セサルモ帝國政府ハ伊國ノ對支通商及權益ヲ尊重助成コソス

レ何等之ヲ阻害スルノ意圖アル筈ナキ旨答へ置キタリ

~~~~~

480

昭和13年6月29日

在伊国堀田大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

独伊間の差別的扱いに強い不満を抱く伊国側の態度変更は不可能であり求償原則に基いて速やかに交渉妥結を図るべき旨意見具申

付記

昭和十三年六月二十八日付本間(精)内務省警

保局長より河相(達夫)情報部長宛公信警保局

外発乙第四五号

訪日中の伊国経済使節団の言動に関する報告

ローマ 6月29日後発

本省 6月30日前着

第二八六號

貴電<sup>(1)</sup>第二〇一號ニ關シ(日滿伊貿易協定ニ關スル件)

二十八日「チアノ」外相ニ面會御訓電ノ趣旨ヲ申入レ斯ル問題ノ爲ニ交渉決裂シ兩國々交ニ暗影ヲ投スルカ如キコトナキ様懇談シタル處同外相ハ自分トシテモ其ノ點ヲ心配シ居ル次第ナルカ獨逸ニ許與セラレタル所伊國ニ拒絶セラル

ル理由ナカルヘク伊國側トシテハ此ノ點ニ不滿アリ就テハ日本政府ニ於テモ「コンチ」ヨリノ説明ヲ聴取セラレ伊國原案ノ原則ヲ承認シテ協定ノ締結ヲ見ル様是非共再考ヲ願度ク問題ノ専門的事項ニ至リテハ係官ヨリ直接詳細ニ説明スル様取計フヘシトノコトナリシカ同日夕刻通商局係官本使ヲ來訪伊國トシテハ日本側ノ强硬ナル主張アリタル爲實行上ニ不便ヲ顧ミス清算方式ヲ受諾シタルモノナルカ殆ント同一時期ニ獨逸側ニ對シテハ求償方式ヲ受諾セラレ居ルコトヲ發見シ何故ニ伊國ニ對シテノミ之ヲ拒否セラルルヤヲ了解シ難ク(對獨協定ニハ信用設置ノ問題アリテ求償方式ヲ受諾セリトノ説明ヲ受ケタルカ伊國側ニ對シテハ何等スル提案ナク日本ハ一途ニ伊國案ヲ峻拒セラレタリト附言セリ)

且伊國カ日本ヲ援助シ支那トノ通商上ノ機會ヲ逸シ居レルニ對シ商工業者ノ間ニ兎角ノ噂アル際更ニ獨逸ニ比シ差別的ナル基礎ノ上ニ條約ヲ締結スルコトハ政府ノ立場ヲ更ニ困難ナラシムヘク依テ伊政府ハ伊國原案ニ立戻ツテ求償方式ヲ主張スルニ決定セル次第ナリト説明シ此ノ點ハ伊國トシテ絶對的ニ讓歩スルコト不可能ナル旨ヲ申述ヘタリ尙本

使ノ質問ニ對シ求償方式サハ受諾セラルレハ伊國側トシテ  
ハ一對一ノ原則ニハ異議ナキ旨確答シタリ

伊國政府ノ態度ハ上述ノ通り頗ル強硬ナルモノアリテ到底  
再考ノ意思ナキモノト認メラル就テハ清算、求償兩方式ニ  
ハ夫々長短ハアルヘキモノ一對一ノ求償原則ニハ變化ナキ次  
第ナルヲ以テ(伊國係官ハ日本ノ買付カ主トシテ工業製品  
ナルニ反シ伊國ノ輸入ハ農產物其ノ他伊國產業ニ必要ナル  
原料ニテ直ニ商談成立シ先ツ爲替手當ヲ要スルハ伊國側ナル  
ヘク此ノ點ニ觀ルモ日本側ニ於テ何等危惧セラルル理由  
ナシト思考スト述ヘ居レリ)伊國側ノ主張ヲ認メ急速協定  
ヲ成立セシメ「コンチ」使節ノ使命ヲ全フセシメ國交ノ將  
來ニ不快ナル氣分ヲ貽ササル様御再考アランコト切望ニ堪  
ヘス

## (付記)

警保局外發乙第四五號

(接受日不明)

昭和十三年六月二十八日

内務省警保局長

外務省情報部長殿

伊太利經濟使節團ノ言動ニ關スル件

目下滯京中ノ訪日伊太利經濟使節團ノ言動ニ關シ別紙記載  
ノ如キ聞込アリタルニ付右何等御參考迄

## (別紙)

伊太利經濟使節團ノ言動

目下滯京中ノ伊經濟使節團ハ本邦トノ經濟交渉ニ關シ頗ル  
不滿ノ感情ヲ抱キ駐日伊大使ハ此ノ事情ヲ知り日伊國交ノ  
上ニ暗影ヲ投スルモノトシテ善處ニ努メ居ル趣ヲ聞知シ之  
レガ内情ヲ内偵スルニ大要次ノ如シ

一、日本ハ伊太利ヨリ飛行機、爆撃機、トラツクヲ買取り正  
金ニテ已ニ二百萬ポンドノ支拂ヲシテ居ル、今回ノ交渉  
ニ於テモ右ノ要望アリ且ツ代金支拂方法トシテ物ノ交換  
ヲ求メラレタ、吾等ハ物ニヨツテハ差支無イ旨承諾シタ、  
然ルニ其ノ交換物トシテ提示サレタノハ「トマトソウ  
ス」「魚ノ罐詰」デアル重要軍器二代フルニ斯カル物ヲ以  
テスルハ一種ノ輕侮デアル「ソース」モ魚モ伊太利ハ必  
要トシナイ

二、使節團ハ本國ニ對シ日獨貿易ノ支拂關係ヲ照會シタルモ

ノ、如ク其ノ回答トシテ正金支拂ノ事實ヲ知り獨、伊ヲ差別扱ヲスルモノトシテ憤慨シ、日本ハ英伊協定後伊太利ニ對スル態度ニ變化ヲ來セリト觀察シ居ル

一、使節團滿洲國訪問ノ際經濟協定ヲ爲シタルニ其ノ契約ノ文言ニ「協定ノ各項ガ日本ニ於テ支障ナケレバ差支ナシ」ト云フ意味ノ事アリ、伊太利ハ滿洲國ヲ獨立國家トシテ承認シ正使ヲ派遣スルニ至タモノデアル然ルニ他國トノ協定ニ日本ノ同意ヲ要スルガ如キ正式文言ヲ使用スルハ獨立國家ニ非ズ恐ラク條約ハ結ベナイデアラウ、吾等ガ歸國後ム首相ニ報告セバム首相ノ考ガ變ルデアラウ

一、吾等ハ何ノ爲メニ日本ヲ訪問シタノカ意味ヲナサズ失敗シテ歸ラナケレバナラナイデアラウ此ノ失敗ハ明カニアウリチ大使ノ責任デアル時期尙早デアツタノダ

一、伊太利船會社長**コスリチ**ガ親善使節トシテ來タ時會社ノ航路ヲ神戸横濱迄延長シタイ希望ヲ持テ遞信大臣ニ面會ヲ求メタ際多忙ト云フテ拒ダ一週間後又申込ダ處病氣ト稱シテ斷ツタ、更ニ四、五日後面會ヲ求メタルニ大臣ハ滿洲ニ旅行不在ト云ハレタソウダ——**コスリチ**程ノ勢力家ハ何レノ國ニ行テ大臣ニ面會ヲ求メテモ拒絶サレタ例

ハ無イ、日本ノ船會社ノ社長ガ伊太利ニ來テ大臣ニ面會ヲ求メルナラバ僅カ十五分間ニシテ面會ガ出來ル、**コスリチ**ハ憤慨シテ上海ニ渡タト云フ事ダ日本ノ伊太利ニ對スル考ハ判ラナイ

一、親善使節團**パウリチ**ガ東京ノ帝國大學ヲ訪問シタ時學生ハ一人モ**パウリチ**ヲ歡迎スル態度ヲトル者ハ無カツタ相ダ、殊ニ總長ハ**パウリチ**ガ學校ノ中ヲ見學シタイ希望ヲ持テ居タノニ忙シト云フテ出テ行タソウダ

~~~~~

481 昭和13年7月5日

日滿伊貿易協定に関する情報部発表

日、滿、伊三國間貿易協定ニ關スル情報部発表

(七月五日)

五月初旬伊國經濟使節團來朝以來日滿伊三國代表者間ニ銳意交渉ヲ重ネタル結果宇垣外務大臣、阮滿洲國大使及「**コンチ**」團長ハ本日外務省ニ於テ「伊太利國ヲ一方トシ日本國及滿洲國ヲ他方トスル貿易及之ヨリ生スル支拂ヲ規律スル伊太利國政府、日本國政府及滿洲國政府間協定」ニ調印

ヲ了シタリ。

本協定ノ目的トスル處ハ一方ニ於テ日滿兩國ト他方ニ於テ伊太利國トノ間ノ貿易ヲ一對一ノ求償ノ基礎ニ於テ増進シ且均衡ヲ計ルニ在リ、伊國經濟使節團ハ極東ニ於ケル短期滞在ノ期間ヲ割キ滿洲國ヲ往訪シタル爲東京ニ於テ行ハレタル本件交渉ハ一行東京歸還迄一時持越サレタルモ交渉當事者ノ熱意ト三國間ニ存スル友好關係ニ對スル相互ノ深キ認識トハ終始協調ト互讓ノ精神トナリテ現ハレ遂ニ妥結ヲ見ルニ至レリ。

今後本協定ノ實施ニ依リ相互ノ經濟關係ハ愈々緊密トナリ三國親善關係亦益敦厚ヲ加フヘキヲ信ス。

編注 本文書は、昭和十三年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十七輯より抜粋。

482 昭和13年8月25日

在奉天加藤(伝次郎)総領事より
宇垣外務大臣宛

日滿伊貿易協定の締結に対する反響報告

機密第二九九號

(8月30日接受)

昭和十三年八月二十五日

在奉天

總領事 加藤 傳次郎(印)

外務大臣 宇垣 一成殿

日滿伊通商協定締結ニ對スル反響ニ關スル件

本年七月五日東京ニ於テ調印セラレタル日滿伊三國間通商協定ノ反響ニ付キ奉天省警務廳情報ニ依レハ本協定ノ成立ハ一部有識者ニ於テハ滿洲國經濟界ヲ世界ニ一層認識セシメ極メテ有意義ナリトシ居レルモ商工業者ハ大ナル期待ヲ有セス外人方面ニ於テハ本協定ノ締結ハ單ニ形式的存在ニ止リ直チニ實質的效果ヲ見ルコトハ困難ナリト批評シ居レル趣ナルカ右情報概要左記ノ通何等御參考迄報告申進ス

記

奉天市

一、經濟界方面ノ影響

日滿伊通商協定締結ニ伴フ經濟界ノ反響ヲ内査スルニ滿洲國ハ昨年獨逸ト通商條約ヲ締結シ滿洲經濟界ノ世界市場ヘノ進出ヲ見タルカ今回更ニ伊太利ト通商條約ヲ締結シ愈々世界的ニ經濟產業國家トシテ認めラレルニ至リ滿

洲通商ハ強化セラレタルモ從來ノ例ニ徴シ一般民間ニハ直接恩惠ヲ受ケルカ知キコトナク商業界方面ニハ大ナル期待ヲ有セス從ツテ目下ノ處直接影響ヲ受ケタル具体的事象トシテ認ムヘキモノ無シ

二、感想

1、經濟界方面

イ、滿洲國ハ獨逸ニ次ギ伊太利トノ間ニ同様通商條約ヲ結ビ滿洲經濟界ノ世界市場ヘノ進出ヲ見タルハ誠

ニ喜フヘキ處ナルモ從來此種條約締結後ニ於ケル實蹟^(續)ニ徴シ餘リニ期待ヲ懸ケルヲ得ス右ハ條約ノ内容

如何ニ因ルモ伊國ヨリ機械類ヲ輸入シ滿洲國ヨリハ特產物大豆ヲ輸出スル程度ニ外ナラス

只伊太利經濟界ヲ通シテ滿洲國ノ獨立ヲ一層世界人ニ認識セシムル政治的的使命アリトシテ本條約ノ締結ハ慶賀ニ堪ヘス

ロ、曩ニ伊太利親善使節ノ來滿ニ依リ滿伊親善熱未タ旺盛ナル折柄更ニ經濟使節團ヲ迎ヘ通商條約締結ノ運ヒニ至リタルハ防共ノ國是ヲ等シクスル友邦ト親善關係ヲ一段ト深メタル感ヲ與ヘ本條約ニ依リ今後

2、一般有識者方面

イ、滿洲建國既ニ六週年此ノ間友邦日本ノ絶大ナル援助下ニ諸政完備シ建國理想ニ邁進シ其ノ實ヲ舉ケツツアル時恰モ伊太利經濟使節團ノ訪滿ハ更ニ經濟的ニ滿洲國ヲ認メラレタルモノニシテ今次締結セル通商條約ハ世界ニ向ツテ經濟國家ヲ認識セシメ延イテハ國民ノ生産能力ヲ向上シ國家經濟強化ヲ計リ極メテ有意義ナリ

ロ、滿伊通商條約ノ締結ハ滿洲經濟界ノ躍進ヲ物語ルモノナルモ昨年伊太利ハ防共協定、滿洲國正式承認ト獨逸ト共ニ東亞ニ於ケル防共陣ニ寄與シタル親交

關係ヨリ今次ノ條約ハ經濟の利害關係ヲ超越シタル精神的表徵ニシテ之カ第三國ニ波及スル影響甚大ナルヘク滿洲國ノ對外關係ノ飛躍發展ヲ認識セシメタル點ヲ國民ハ理解セサルヘカラス

3、外國人方面

イ、伊太利ハ經濟のニハ惠マレサル貧乏國ナル爲國民ノ商業智識ニ薄ク滿洲國間ニ通商條約締結アルモ期待サルルカ如キ效果ハ擧ゲ得サルヘシ

ロ、滿洲國ハ獨逸、伊太利ト防共協定、滿洲國承認、通商條約ト筋書通りニ事力運ヒタルニ過キス本條約ノ效果ハ將來ノ問題ニシテ實質的效果ハナカルヘシ

營口市

一、反響

1、日本人側

一般ニ當然ノ歸結ト觀測シコレニ依テ日滿獨伊ハ完全ニ携繫ヲ見ルニ至リ事變下ノ日滿國礎ハ益々強固トナリタルヲ祝福シ實業界ハ將來ニ對シ相當期待ヲ有シ居レリ

2、滿人側

支那事變勃發以來各種流言ニ誑サレアルカ今回日滿伊通商條約締結ニ關シ滿洲國ノ地位向上ヲ祝福シアルモ一部民間ニハ通商ノ代償トシテ撫順、鞍山ヲ伊國ニ交付等云々スル者アリ嚴重視察取締中ナリ

3、外人側

在住外人側殊ニ伊國人竝獨逸人ハ心カラ之ヲ祝福シ居レリ

二、感想

1、日本人側

イ、日人官公吏一般有力者

三國防共協定ニ關連シ今回ノ通商協定ハ當然ノ歸結ニシテ慶祝ニ堪ヘス

ロ、經濟界

昭和十二年度ノ滿伊貿易ハ輸出二百六十萬圓輸入百六萬圓餘合計二百六十六萬圓餘ナルモ今次通商條約ニ依レハ貿易額一億圓ナリト風説シ伊太利ハ機械類ヲ滿洲國ニ輸出シ滿洲國內ヨリハ特產物ヲ主トシ「マグネサイド」及豚毛ヲ多量ニ輸出スルモノト觀測シ特ニ豚毛ハ國內ニ豊富ニアリ廢物利用のニ農民

ヲ獎勵シテ之ヲ輸出セハ農民ニ對シテモ一大福音ヲ齎スヘク現在ノ滿伊貿易ハ一躍一億圓ニ飛躍スルヲ以テ經濟界方面ニ於テハ相當樂觀期待シ得ヘシ

ハ、朝鮮人側

日滿伊通商調印ハ二國間ノ親善大義ニ基ク國家の收獲ニシテ該通商ニ依リ本邦產業五ヶ年計畫遂行上拍車ヲ掛クルト共ニ蔣政權側ノ企圖スル長期戦ヲモ索^(幸カ)制スルコト亦尠カラサルヘシ

2、滿人側

イ、官公吏及市民有力者

世界ノ大勢ヨリ當然ノ事ナリ
今次日滿伊ノ通商條約ノ締結ハ英米佛蘇各國ニ對スル共同戦線ヲ結成セルモノニシテ現状保持國ニ對スル現状打破國ノ強化ニ外ナラス

ロ、經濟界

今後農業立國ノ滿洲國ト工業立國ノ伊太利トハ相互ニ相益スルコト尠カラサルト共ニ我カ産業五ヶ年計畫モ愈進展ヲ見ルヘシ

ハ、一般民

下級民ハ伊太利ニ對シテ深キ認識ナク先般伊太利經濟視察團來滿シ撫順其ノ他ノ各地ヲ視察シテ以卒一^(案)部ニハ撫順、鞍山ヲ伊太利ニ交付シ伊太利ハ其ノ代償トシテ武器ヲ供給スヘシ或ハ右ニ關聯シ大連ハ軍港トナリ營口ハ完全ナル商港トシテ活動スルコトトナルヘシ等ノ流言アルヲ以テ銳意視察之カ防止ヲ計リツツアリ

3、外人側

イ、和蘭領事代理諾威副領事、旗昌洋行主英人

「パースバル、フアーマー」ノ言

日滿伊ノ通商協定ノ調印ハ慶賀スヘシ今次通商協定ハ「ソ」聯ヲ目標トセル防共協定ニ基キ之ヲ強化シタルモノト思料スルモ何レニシテモ一國テモ多クスル經濟協定ニ加入スル事ハ貿易ヲ増進シ國家ノ隆盛ヲ來シ在滿協定國人ニ與フル利益モ亦相當大ナルヲ以テ我カ國モ大局の見地ヨリ早急のニ滿洲國ヲ承認シ斯ル經濟協定ヲ結ハム事ヲ希望ス

ロ、貿易商獨逸人

「アレキサンダー、バイヤー」ノ言

今回日滿伊通商協定ノ調印ハ慶賀ニ堪ヘサル事實ニシテ經濟ヲ基礎トセル防共協定モ益々強化セラルヘシ滿伊ノミノ通商協定ナルニ於テハ兩國間貿易ノ増進モ期待シ得サルモ日本ノ加入ハ貿易ノ躍進ヲ必定ナラシメ現在額ノ三倍ハ間違ヒナク日本ハ飛行機ヲ初メ諸種戰斗用品ヲ伊太利ヨリ輸入シ之ニ代ヘ滿洲國ヨリハ豆油ヲ初メ「マグツシヤ」圭石其他特産ヲ伊太利ニ輸出シ「バター」制ノ圓滑ヲ期スルモノト思料ス

我々獨逸人ハ伊太利人トハ親友關係ニモアリ今後相當ノ貿易額ノ増進ヲ來スモノト期待ス

ハ、伊太利宣教師

「ゼイ、ヒーヘリン」ノ言

我カ國及日滿間通商協定ノ締結ハ喜ハシキ事ニシテ從來滿洲ニハ伊國人ハ僅少ニシテ貿易關係モ他國ニ比シ皆無ト云フモ差支ナキ狀態ナリシカ今回ノ協定ニヨリ貿易ノ増進ニ伴ヒ伊國人ノ漸増スルハ必至ニシテ益々兩國間ノ親交ヲ厚クシ防共協定ノ眞價ヲ發揮スルト共ニ滿洲國モ經濟的ニ世界市場ニ登場シ

益々隆盛ヲ來スヘシ

本信寫送付先 在滿大使

~~~~~

483

昭和13年10月17日

在伊國堀田大使より  
近衛外務大臣宛(電報)

日滿伊貿易協定の発効により伊國側は日滿からの輸入品に対する割当制度の適用を停止し許可制へと変更について

ローマ 10月17日後発

本省 10月18日前着

第四三六號

日滿伊三國間求償協定カ九月一日ヨリ效力ヲ發生セル結果日本及滿洲國ニ對シテハ同日以後一九三四年輸入實績ノ「パーセンテージ」ニ依ル割當輸入制度ハ適用停止セラレ現在同制度ノ目的物トナリ居ル商品ハ日滿兩國ヨリ輸入セラレタル場合總テ許可ヲ要スル旨九月五日大藏省令ヲ以テ公布セラレタリ

~~~~~

484

昭和14年9月8日
在伊国白鳥(敏夫)大使より
阿部外務大臣宛

欧州大戦勃発に伴つ伊国の輸出制限措置について

普通公第三一五號
(10月14日接受)

昭和十四年九月八日

在伊太利

特命全權大使 白鳥 敏夫(印)

外務大臣 阿部 信行殿

伊國ノ輸出制限措置ニ關スル件

伊國政府ハ曩ニ電報ヲ以テ申進置キタル通り九月一日附勅令ヲ以テ食糧品、糸類、金屬類、自動車、飛行機、皮革、金等約六十品目ヲ輸出禁止品目トシテ指定シ之カ輸出ニハ右勅令ニ依リ設置セラレタル關係省係官ヨリ成ル委員會ノ許可ヲ要スル旨ヲ規定シ官報公布ノ日タル九月四日ヨリ之ヲ實施スルコト、ナレリ

(見当ラズ)

右關係勅令ヲ掲載セル官報二部相添ヘ此段報告申進ス委細ハ右勅令ニ付御承知相成度シ

485

昭和14年9月22日
在伊国阪本(瑞男)臨時代理大使より
阿部外務大臣宛(電報)

伊国側に対し輸出入制限措置の適用除外方を

申入れについて

ローマ 9月22日後発

本省 9月23日前着

第三三八號

貴電第一九六號ニ關シ(日滿伊貿易協定ニ關スル件)

係官ヲシテ爲替省當局ニ對シ今次戰亂ニ基ク輸出入制限措置ハ日滿伊協定ノ運用ニ關聯シ痛ク日本側ヲ憂慮セシメ居ル次第ヲ述ヘ右措置ヨリ日本除外方申入レシメタル處先方ハ今次措置ハ緊急ノ事態ニ面シ國家生存ノ必要ヨリ執ラレタルモノニシテ日滿伊協定ノ存續及其ノ圓滑ナル運用ハ伊側ニ於テモ素ヨリ希望シ居ルモ日本ノミニ除外例ヲ認ムルハ不可能ニテ又事態稍々明白トナリタル今日ニ於テハ右措置ハ事實上相當緩和セラレ即チ輸出禁止品ニ付テモ許可アリ次第大體支障ナク輸出ヲ許シ又輸入代金支拂ニ付テハ事變當初緊急措置トシテ支拂見合方措置シタルモ今日ハ其ノ必要ナクナリ payment against documentノ原則ニ依リ支拂ヲ

實行シ居ル次第ニテ事務輻輳等ノ關係ニテ其ノ間多少ノ時
日ヲ要スル點ハ之ヲ諒トセラレタク今日ノ情勢ノ下ニ於テ
ハ日本側モ此ノ邊ニテ満足セラレタキ旨ヲ繰返シ居タル趣
ナリ

尙改定品目等ニ付テハ我方案ヲモ參照シ目下當業者ヲシテ
研究セシメ居ル趣ナリ



486

昭和14年9月28日

在伊国阪本臨時代理大使より
野村外務大臣宛(電報)

伊国の輸出入制限措置に対するわが方対応振
りにつき意見具申

ローマ 9月28日後発

本省 9月29日前着

第三五七號

往電第三三六號ニ關シ

獨波戰爭開始後伊國ノ執リタル各種措置ハ外貨獲得海上危
險負擔回避等緊急事態ノ必要ニ基ク次第ナルヲ以テ事件落
着ノ見据付カス事態現在安定セサル今日ニ於テ右障礙措置
緩和ヲ求ムルハ甚タ困難ニシテ却テ高價ナル對償ヲ要求セ

ラルルノ惧アルノミナラス假ニ或程度ノ約束ヲ取付ケタリ
トスルモ今日何所迄實行シ得ルヤ甚タ疑問ニシテ我方トシ
テハ寧ロ此ノ際品目改正ノ交渉ヲ進メツツ其ノ間伊側カ物
資不足ニ陥ルヲ待チ且ツ事態安定ノ期ヲ見テ支拂其ノ他ニ
關スル障礙除去ニ付話合ヲ進メ何等約束ヲ取付クルコト然
ルヘシト思考セラルル處右ニ付何分ノ儀御回電アリタシ



487

昭和14年10月16日

在伊国阪本臨時代理大使より
野村外務大臣宛(電報)

伊国の支払状況悪化に鑑み対伊取引は警戒を
要すべき旨具申

ローマ 10月16日後発

本省 10月17日前着

第三八七號

諸般ノ情報ヲ綜合スルニ最近伊太利ハ獲得セル外貨ヲ以テ
第一二軍需工業次テ輸出產業ノ原料輸入ニ充當シ國內消費
品及其ノ原料ノ如キハ殆ト省ラレサル實情ニテ日滿ヨリノ
許可證ヲ有スル伊側商社ハ爲替許可取附ケ全ク不可能ナル
ニ鑑ミ辦法トシテ輸入品ノ價格ニ相當スル「リラ」貨ヲ伊

國銀行ニ拂込ム丈ケノ事實ニ依リ(其ノ結果ハ凍結トナルヘシ)日滿產品入手方本邦商社側へ申込ムモノアリ右ハ爲替省方面ノ一般の示唆ニ基クモノノ如ク現ニ伊「エ」戰爭當時ニモ同様ノ事例存シ其ノ遣口當時ノ夫レニ彷彿タルモノアル趣ニテ對伊取引ニハ益々警戒ノ要アリ

尙八月中ニ到着セル三井ノ大豆中當館累次ノ督促ニモ拘ラス未タ支拂ハレサルモノアル處一方伊側ノ支拂ハ惡化ノ一路ヲ辿ルノミナル爲三井ニテハ右契約ヲ破棄シ他國ニ廻シタキ旨相談アリタルニ付伊側牽制上ヨリ言フモ全然右ニ贊成ナル旨述ヘ置キタリ

各國トモ對伊輸出ニハ非常ニ警戒シ居ル様子ニテ亞爾然丁、伯刺西爾、米國各大使館商務官ニ夫レトナク聞合シタル處亞爾然丁當業者ハ大體結束シテ其ノ對伊信用狀發給ヲ要求シ居ルモ仲々思フ様行カサル趣ニテ伯刺西爾ニテハ珈琲ノ輸入ニ對スル伊國ノ支拂客年ヨリ頓ニ惡化シタル爲信用狀ナシニハ賣ラサル旨申合セタル處伊國ハ珈琲ノ不賣ヲ以テ之ニ答ヘ茲ニ伊伯貿易ハ完全ニ杜絶シ目下之カ打開方當地ニテ交渉中ノ由米國ハ又映畫「フィルム」其ノ他雜品ノ代金ニシテ相當長期ニ亘リ支拂ヲ受ケサルモノアル外特許料、

利子、配當金ノ類ハ完全ニ凍結シ弱リ居ル模様ナリ

尙日滿伊協定制當中履行未済分ニ付相互ニ輸入實行方伊側ヨリ申出アリタル趣ノ處右ハ恐ラク我方ノ外貨ヲ利用セントノ目的ニ出テタルモノト思考セラルルニ付先ツ伊側ノ支拂ニ付充分ノ約束ヲ取附クルコト肝要ナリト存ス
御參考迄

~~~~~

488

昭和14年11月24日

野村外務大臣より  
在滿州國植田大使宛(電報)

日滿伊貿易協定の延長に際し品目表の変更留

保につき滿州國側の意向確認方訓令

本省 11月24日発

第七九九號(至急)

現在日滿伊貿易協定ハ九月以降半ケ年延長セラレ居リ而モ十一月末日迄ニ右協定ノ廢棄通告ナキ場合ハ更ニ來年三月ヨリ半ケ年延長セラルコトトナルヘキニ付右協定ノ效力延長ニハ品目表ノ變更ヲ留保スル旨伊國側ニ申入レルコトト致度キ處滿側ノ意向至急御確メノ上結果御回電相成度

~~~~~

489

昭和14年11月27日

在満州国梅津(美治郎)大使より
野村外務大臣宛(電報)

品目表の変更留保につき満州国側同意について

新 京 11月27日後発

本 省 11月27日夜着

第六四三號(至急)

貴電第七九九號ニ關シ(日滿伊貿易協定ニ關スル件)

日滿伊貿易協定延長ニ關シ滿側モ品目表ノ變更ヲ留保シテ
協定ヲ延長スルコトニ同意ニシテ就テハ日本側ト打合ヲ了
シタル品目表改訂交渉至急促進方御配慮アリタシトノコト
ナリ

490

昭和14年11月28日

野村外務大臣より
在伊国天羽大使宛(電報)

日滿伊貿易協定の延長に際しては品目表の変

更を留保する旨伊国側へ通報方訓令

本 省 11月28日後8時発

第二五六號(至急)

現在日滿伊貿易協定ハ割當品目表ヲ改訂スル事ヲ條件トシ

テ九月以降半ケ年延長セラレ居リ(往電第一〇二號參照)右
改訂交渉ハ目下繼續中ナル處日滿側ハ來年三月以降引續キ
其ノ效力延長方希望シ居ルモ右延長ハ品目表ノ變更ヲ留保
スル旨伊側ニ御通報相成度

491

昭和14年12月9日

在伊国天羽大使より
野村外務大臣宛(電報)

伊国工業の活性化状況に鑑み速やかに對伊輸

出再開の措置を講ずるべき旨意見具申

ローマ 12月9日後発

本 省 12月10日前着

第五〇三號

伊太利工業ハ最近英佛ヨリノ註文竝ニ獨逸品入手困難ニ依
ル中立國ヨリノ註文ニ依リ相當活氣ヲ呈シ始メツツアルモ
ノノ如ク旁々大豆魚油等ニ對シ往電第四六九號ノ通り更ニ
輸入許可發給セラレタル關係モアリ近頃纏リタル對本邦引
合弗々現レツツアル由ニテ其ノ支拂方法モ改善セラレ何レ
モ例外ナク外貨信用狀快諾ヲ申出テ來レル由ニテ之ナラハ
對伊輸出再開モ差支ナシト思考セラル依テ本邦對伊輸出組

492

昭和14年12月15日

在伊国天羽大使より
野村外務大臣宛(電報)

日滿伊貿易協定の品目表改訂交渉における伊

国側意向について

ローマ 12月15日後発

本省 12月16日夜着

合ノ決議竝ニ郵船ノ對伊積止ハ前記伊側ノ客觀的情勢ノ變化トモ相俟チ充分效果ヲ收メタル次第ニシテ今日ニ於テハ最早其ノ必要ナカルヘク萬一我方カ一層有利ナル支拂條件ヲ固執シテ現行ノ態度ヲ緩和セサルニ於テハ英伊通商委員會モ成立セル今日再ヒ印度產品落花生ノ輸入復活ニ關シ英國側策動ノ餘地ヲモ與フル次第ナルニ付此ノ邊ニテ速ニ輸出再開ノ措置ヲ執ラルルコト可然ト存セラル然レトモ今後萬一二モ組合内ノ步調亂レ各自功ヲ急クノ餘リ信用狀ナシノ輸出ヲ引受クルモノヲ生スルニ於テハ伊側ニ付込マレ再ヒ支拂惡化ヲ見ルコト必定ニ付組合ニ於テハ嚴重申合ノ上步調ヲ合セ苟クモ拔驅ケノ行動ニ出テサル様併セテ御措置相成ルコト必要ナリ右卑見申進ス

第五二三號

貴電第一七三號ニ關シ(日滿伊貿易協定品目表改訂交渉ニ關スル件)

我方案ニ對シ漸ク關係各方面トノ打合ヲ終リタル趣ニテ別電第五二四號^(省略)ノ案ヲ提示シ來リタルニ付係官ヲシテ爲替省當局ト折衝セシメタル處伊太利側ニテハ當方質問ニ對シ本邦ヨリノ輸出希望品「リスト」中絹製品綿製品首飾等及銅製品陶磁器合染料罐詰ハ伊國ニ有リ餘ル程ノ生産アリ菜種ハ伊國產及巴爾幹方面ヨリノ輸入ニテ事足り米油ハ全然必要ナシ、水產物ハ値段高ク問題トナラサルノミナラス伊國ノ魚漁モ漸増ノ傾向ニ在リ生糸モ差當リ必要ナク以上ノ理由ニテ何レモ輸入不可能ナリ、若シ生糸、水產物ニシテ輸入ノ要アル場合ハ其ノ他ノ商品割當ヲ客年度ニ比シ五百萬「リラ」迄増額シタルニ付右ノ部ニテ購入スルコトモ可能ナルヘシ次ニ伊國ノ對日供給品中政府購買品即チ軍需品ノ供給ハ原料入手難ト伊國軍備充實ノ必要上對日供給モ稍窮屈トナルヘク割當額幾分減少セル次第御了知願度ク又帽子釧、大理石ハ伊國使節團カ客年東京ニテ努力ノ結果割當ヲ得タルモ日本側ハ必要品ノミニ買付ヲ集中シ殆ト之カ買付

ヲ履行サレヌ(右ハ伊側ノ輸入思ハシカラサリシ爲我方ニ
テモ買付ヲ差控ヘタルモノト認ムル旨反駁シ置ケリ)

甚タ遺憾ナル處此等工業ハ事業維持上一定ノ輸出ヲ必要ト
スルモノナルニ付客年同様ノ割當ヲ要求スル旨繰返シ次ニ
石膏及「タンニン」ハ日本ノ希望ニ應シ又化學製品、藥品、
染料ハ獨逸品ノ品薄竝ニ伊國業者ノ希望ヲ考慮シテ割當額
ヲ増加シタルモノニテ「トマト」罐詰、電線、電動機、「タ
イヤ」、「ゴム」製品、Guarnizioni Per Carde ハ客年日滿ヨリ
引合アリ時局柄日滿ニテモ必要ト思考セラルルモノアリ印
字機及「ミシン」ハ過去一年ニ亘リ東京商務官力折衝セル
モ效ナカリシモノナルカ英米製品ニ代ヘ是非輸入方ヲ希望
ス映畫ハ「パウルトチ」ノ主宰スル「ルウチエ」其ノ他ニ
テ製作セルモノニシテ日伊文化提携ノ見地ヨリ宣傳省ニテ
力ヲ入レ居ル旨述ヘタル趣ナリ係官ヨリハ伊案ハ客年ノ夫
レニ比シ日本ニトリ不利ナルニ付東京ヨリ相當ノ修正アル
ヘキ旨ヲ前提シ日本側ニテ輸出ヲ希望シ居ル製造品復活方
政府購買品ニ對スル割當増額方等ノ見込ニ付腹藏ナキ意見
ヲ尋ネタルニ先方ハ本案ハ各方面トノ複雑ナル折衝ノ後漸
ク纏メ上ケタルモノニシテ製造品ニ關スル日本側意嚮ハ之

ヲ尊重シ別ニ養殖眞珠、朝鮮品「グラフアイト」、馬鈴薯澱
粉、「ラミー」麻ヲ新ニ加ヘタル外茶ノ輸入額ヲ一躍二倍近
クニ増加セル趣ニテ綿製品絹織物改正品ノ類ハ伊國側ニテ
輸出先ヲ見出スニ苦シミ居ル位ニテ日本ヨリノ輸入ハ到底
望ナク又軍需品ニ對スル割當増加ハ複雑ナル内部的關係ア
ルモノノ如ク爲替省一存ニテ何トモ申上ケ難キモ情勢ノ變
化ニ依リ客年度ノ如ク自由ナラサルコトタケハ明白ナリト
述ヘ水銀ノ求償割當額増加ニ付テハ求償除外ハ政府ノ根本
方針ニテ日本ニ對スル措置ハ特別ノ恩惠ナルニ付増加ハ困
難ト思考スルモ兎モ角希望額申出アリタキ旨述ヘタル趣ナ
リ



493

昭和14年12月17日

在伊國天羽大使より
野村外務大臣宛(電報)

中立国よりの輸入品の原産地証明取扱い方針

につき請訓

ローマ 12月17日前発
本省 12月17日後着

第五二九號(大至急)

獨逸輸出ニ對スル英佛ノ報復令適用ト共ニ中立國ヨリノ輸出ニ付テモ英國領事ノ原產地證明添付ヲ要スルコトナレル處御承知ノ通り日滿伊協定ニ基キ伊國ヨリ輸入スル官用品(大部分武器類)ニ付テ迄原產地證明書ヲ求ムルコトハ機密ヲ英佛側ニ通報スルコトナリ面白カラサルニ付當地陸軍武官ニテハ其ノ購入ニ係ル諏訪丸積込分ニ付テ原產地證明ヲ求メス差當リ右カ政府購買品ニシテ且協定ニ基ク純伊國產品ナルコトヲ記述セル當館證明書ヲ添付スルノミニテ飽迄押切り以テ先例ヲ作りタキ意嚮(海軍武官ニ於テモ急ヲ要スル關係上追テ產地證明ヲ求ムルモ已ムヲ得ストノ意嚮)ニテ陸軍ニテハ其ノ旨本省ニモ既ニ電報シタル趣ナル處本邦政府ニ於テ中立國ヨリノ購入品ニ付テハ原產地證明ヲ求メサルコトニ方針ヲ決定セラルルニ於テハ兎モ角然ラサル限りハ反テ紛爭ヲ惹起シ獨逸產品輸出ニ關スル外交交渉ニモ影響スル惧アルノミナラス當地陸海軍間ニ於テモ各々其ノ購入品ニ關スル取扱ヲ異ニスルコトナリ面白カラサルニ付テハ陸海軍側トモ御協議ノ上何分ノ御方針御決定相成度シ諏訪丸「ゼノア」入港日タル十九日迄ニ大至急回電相願度シ

英、佛、獨、白、瑞西、和蘭ハ轉電セリ

~~~~~

494

昭和15年1月19日

在伊國天羽大使より  
有田外務大臣宛(電報)

品目表改訂に関する伊國案への早期回答を伊

側希望について

ローマ 1月19日前發

本省 1月20日前着

第五三號

客年往電第五二三號ニ關シ

爲替省ヨリ冒頭往電別電中馬鈴薯、大豆、寒天等一部ノ商品ニ對シ日本側同意ヲ見越シ既ニ輸入許可ヲ發給セルモノモアル趣ニテ早目ニ日本側回答ニ接シタキ旨希望シ來リタルニ對シ日本側ニ於テハ滿洲國トモ相談ノ要アル外日滿業者間割當均衡ノ問題モアリ爾ク簡單ニ行カサルモノト思考スルモ既ニ輸入許可ヲ發給セル事情モアルニ於テハ右希望ヲ傳ヘ置クヘキ旨回答シ置キタル趣ニ付右御含ノ上早目ニ回答方御取計ヲ得度シ

尙最近當館ニ對シ北伊ノ業者ヨリ魚油或ハ馬鈴薯澱粉ノ輸



入許可ヲ得タル趣ヲ以テ日本側指定輸出商名通報方依頼シ  
來レルハ右伊側許可發給ノ事實ヲ裏書スルモノト思考セラ  
ル

~~~~~

495 昭和15年3月20日 在伊国天羽大使より
有田外務大臣宛(電報)

品目表改訂に関するわが方回答を伊国側督促 について

ローマ 3月20日午後發
本省 3月21日前着

第二四六號

伊國側ニテハ物資輸入計畫ノ都合モアル模様ニテ日滿ヨリ
ノ輸入品ニ對シ輸入許可發給ノ必要ニ迫ラレ居リ本邦使節
團到着ノ上品目決定ヲ見ル迄待チ得サル事情アル趣ニテ伊
側對案ニ對スル回答督促方要請アリタルカ更ニ正式ニ公文
ヲ以テ右ノ次第申越セリ就テハ伊側ノ輸入計畫ヲ齟齬セシ
メス且先方ノ欲シ居ル際輸出実績ヲ納メ置ク意味ニ於テ完
全ナル「リスト」ハ使節團到着ノ上協議作成スルコトトス
ルモ差當リ我方ニテ對伊供給可能ナル品目竝ニ必要ニ依リ

右數量ヲモ通知シ伊側ニテ發給セル輸入許可額ハ之ヲ第二
年度割當中ニ包含セシムルコトトシテハ如何カト思考スル
處何分ノ儀御審議ノ上御回電アリタシ

編 注 日滿伊貿易協定の付屬品目表の改訂交渉は、昭和十五

年六月二十一日に合意に達した。

~~~~~